



自衛隊栃木地方協力本部

北高根沢中学校で「職業人に聞く」を支援 なぜ、南極の氷？！

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 松田一尉）は、12月9日（火）、高根沢町立北高根沢中学校で実施された講座「職業人に聞く」に、広報官の平井貴善・空曹が講師として初めて参加した。

「職業人に聞く」とは、「地域に学び、自分を拓く」をテーマに総合的な学習の一環として、様々な分野の職業の経験談等を聞き、生徒たちに正しい職業観や勤労観を身につけさせ、今後の生活や進路に役立てるために実施されている。今回は、元プロ野球選手、学芸員、新聞記者等の職業関係者が参加した。

自衛官の講座では、30人の生徒たち（2回講座を行った。）に、自衛隊の仕事、隊員の生活、経験談等を話した。普段知ることのできない自衛隊の話しに、生徒たちは興味深く聞き入っていた。その後実施した迷彩服試着体験では、帽子を被り「似合ってるかな？！」と言いながら、楽しそうに敬礼の動作を友達同士で行っていた。また、海上自衛隊が南極観測船「しらせ」が持ち帰ってきた「南極の氷」の展示では、「えー？自衛隊がなんで南極の氷なの？」と質問の声が上がったほか、「氷からパチパチと音が聞こえる・・・」と、氷の神秘さに触れるとともに自衛隊の様々な任務について驚くとともに、見識を広げてもらう一助となった。

大田原地域事務所は、「今後も学校との連携と信頼関係を強化し「地域密着型」の広報で邁進していく」としている。

母校から「職業人にインタビュー」の依頼 40年振りの集会室に・・・

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 松田一尉）は、12月16日（火）、佐野市立佐野小学校で実施された、講座「職業人にインタビューしよう」に同校出身の広報官、平井貴善・空曹が講師として支援した。

「職業人にインタビューしよう」は、児童の職業観や勤労観を育成するために総合的な学習の時間で行われている。今回は、看護師、農業、建築士、小売業等の8名の職業人が講師となった。

自衛官の講座では、30人の生徒たちに、自衛隊の仕事、隊員の生活、経験談等を話すと、「佐野小学校出身の自衛官」の話に親近感を持った様子で、興味深く話を聞いていた。その後の質問コーナーでは、「僕も自衛官になれますか？」、「自衛官としての「やりがい、苦労した事はなんですか？」など、たくさん質疑応答を経て盛況のうちに終了した。

平井・空曹は、今回の講座を振りかえり、「佐野市立佐野小学校は、約40年前に卒業した母校であり、2人の子供の出身校でもある思い出深い学校です。講座の会場の「集会室」に入るのも40年振り、小学校当時は、やんちゃだったな・・・。今思うとまさか、自分が自衛官になるなんて・・・。」と、とても懐かしい気分になったと感想を述べていた。

大田原地域事務所は、「今後も学校や地域との連携と信頼関係を強化し、まずは「身近に感じてもらおう」とともに「知ってもらおう」広報で邁進していく」としている。